

## 第7回食品産業振興に向けた支援方針策定に係る専門家会議議事要旨

- 1 開催日時 令和2年7月10日（金） 13：30～14：30
- 2 開催場所 都庁第二本庁舎31階 特別会議室21
- 3 出席委員 春見委員（座長）、黒川委員、久塚委員、松岡委員
- 4 議事  
都内食品産業振興に向けた提言書（案）について
- 5 概要  
事務局より配布資料についての説明を行い、委員より「提言書（案）」の修正点等の意見を頂戴した。
- 6 主な委員意見  
(1) 都内食品産業振興に向けた提言書（案）について
  - ・昨年度、本専門家会議で取りまとめた提言書の中間まとめは、コロナウイルス感染症拡大以前のものであり今般のコロナの状況は想定しておらず、感染症拡大による食品産業への影響等に関する記載がなかったが、今回ご提示頂いた最終的な提言書（案）ではコロナの影響が盛り込まれたものとなっている。
  - ・お示し頂いた「食品研と産技研の統合によるメリットを活用した研究や支援」として、機能性表示食品開発や異物混入対策などの案がある。これらの案は、両研究機関の研究者の方々がディスカッションを行った結果とのことだが、異なった技術的背景を持った研究者が議論しアイデアを出し合うことで、独創的なアイデアが生まれるという点でも非常にいい取組だと思う。
  - ・社会的な状況の変化やニーズに合わせたアイデアの創造が期待できるため、こうした議論は今後も定期的に継続していただきたい。
  - ・食品産業振興に係る支援の方向性において、川上から川下へ一貫した支援ということであるが、川下には消費者がいるため、やはり消費者のニーズを踏まえた様々な技術開発が重要であることから、研究者同士だけでなく公社のマーケティング部門の方も交えると効果が高まると思う。
  - ・統合することにより食品研と産技研のそれぞれの強みを生かしていくこ

とはぜひ行って頂きたい。

- 両組織の研究者の方々自身にも、統合によりできるようになった支援等、統合のメリットを実感して頂ける方向に進められれば良いと思う。
- 食品の安全性の確保だけでなく品質保証も重要な要素である。SDGs など様々な社会経済の動きに伴って、食品全体の品質から製造方法など全般的に見方が変化している。
- 提言としてまとめた段階で終わってしまうのではなく、具体的な支援までつなげて頂きたい。利用者にメリットを与えるためにはどうしたらいいかなど、提言一つ一つを具体化しどのように質を高めていくかということも考えながら取り組んで頂きたい。